

第2部 経済研究所公開セミナー

埼玉県のサッカー教育の現状 1

竹 沢 茂（関東大学サッカー連盟評議員）

司会 はい、それでは、第2部といたしまして、埼玉県のサッカー関連について、お話をさせていただきたいと思います。これから先は、コーディネーターである明石先生にバトンタッチさせていただきますので、明石先生、よろしくお願いします。

明石 竹沢先生、高峯先生のお話を伺った上で、野田先生も含め4人で、われわれ、何ができるかということで、あるいは何が問題かということでやろうと、ポイントを整理させていただきたいと思います。じゃあ、竹沢先生、よろしくお願いいたします。

竹沢 はい。それでは、お話をさせていただきます。私、竹沢と申します。初めての方もいますし、選手の皆さんは見覚えがあるという人も居ますでしょうか。以前、こちらの大学で指導に関わらせていただいていたので。現在は、埼玉県のサッカー連盟の仕事をやらせていただいております。その関係で、関東大学サッカー連盟の評議員も務めさせていただいています。

レジュメに関東大学サッカー連盟評議委員と記載されていますが、埼玉大学サッカー連盟の仕事がほとんどです。気楽な感じで聞いていただければと思います。

ドイツの話をお二人の先生方にさせていただきまして、この後は、私の方から埼玉県のサッカーの現状についてお話しさせていただきます。

私自身、先ほどお話をしましたように、大学サッカーに携わってきた時間がほとんどですので、高校・中学のレベルで実際に指導してきたわけはありません。

皆さんの助けを借りるかもしれませんので、数年前の高校のことを思い

表1 学年別生徒数（中学校）

埼玉県サッカー教育の現状

平成29年度埼玉県学校基本調査より

表2 学年別生徒数

区 分	総 数			1学年		2学年		中学校 3学年	
	計	男	女	男	女	男	女	男	女
平成 25 年度	196,384	101,497	94,887	33,813	31,382	33,775	31,663	33,909	31,842
平成 26 年度	196,228	101,477	94,751	33,799	31,581	33,838	31,453	33,840	31,717
平成 27 年度	195,156	100,927	94,229	33,181	31,045	33,861	31,649	33,885	31,535
平成 28 年度	193,238	99,718	93,520	32,555	30,729	33,260	31,096	33,903	31,695
平成 29 年度	190,182	97,934	92,248	31,995	30,319	32,630	30,779	33,309	31,150
対前年度増減率(%)	△1.6	△1.8	△1.4	△1.7	△1.3	△1.9	△1.0	△1.8	△1.7

出所：埼玉県「平成29年度学校基本調査 調査結果の概要」より

(<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0206/a219/kakuhoukekkgaiyou2017.html>)

出して話をしてもらえると助かります。ご協力の程、お願いします。

埼玉県の学校基本調査という表を用意しました。(表1)

これは大学の先生方も今後どのように15歳、18歳の人口が推移していくか、興味のあることなのかと思います。

埼玉県の学校基本調査によりますと、中学校年代の生徒数は毎年減少し、ここ5年の間に6千人ほど減少しています。

男女比は若干男子が若干多い状況ですが、ほぼ1対1で現在10万人を割っている現状です。

ここで、埼玉県のサッカー教育の現状の対象は男子になります。女子の方は少しまた違ったデータがありますので、男子を中心に見ていければなというふうに思っております。10万人弱、97,000人ほどの中学生が在籍しているということになります。

では、高等学校の方はどうかというと、これも学校基本調査の方で出ております。(表2)

総数としては、平成29年度で17万7,000人ということになっております。こちらは、男女比や学年別ではなくて、全日制とか、定時制とか、あるい

表2 学年別生徒数（高等学校）

表2.4 高等学校の推移

区分	学校数	高等学校											
		生徒数				学科別生徒数						本数員数	本務教員1人当たり生徒数
		総数	全日制(本科)	定時制(本科)	全日制(専修)	普通科	農業科	工業科	商業科	家庭科	左記以外		
平成25年度	196	176,764	170,457	6,093	214	140,184	2,833	9,088	9,607	1,267	13,571	11,087	15.9
平成26年度	196	178,511	172,606	5,687	218	142,031	2,833	8,779	9,215	1,281	14,154	11,142	16.0
平成27年度	196	178,227	172,624	5,397	206	142,019	2,828	8,510	8,906	1,259	14,499	11,209	15.9
平成28年度	196	177,926	172,675	5,042	209	142,255	2,857	8,367	8,659	1,218	14,361	11,246	15.8
平成29年度	196	177,514	172,479	4,835	200	142,222	2,832	8,330	8,598	1,183	14,143	11,221	15.8
対前年度増減率(%)	0.0	△ 0.2	△ 0.1	△ 4.1	△ 4.3	0.0	△ 0.9	△ 0.4	△ 0.7	△ 2.9	△ 1.5	△ 0.2	0.0
構成比(%)		100.0	97.2	2.7	0.1	80.2	1.6	4.7	4.8	0.7	8.0		

注1:学科別生徒数は、本科のみ。
 注2:構成比は、小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計が100%にならないことがある。

出所：埼玉県「平成29年度学校基本調査 調査結果の概要」より

(<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0206/a219/kakuhoukekkgaiyou2017.html>)

は普通科、農業科、それぞれの特徴のある科の資料を出してもました。

男女比は出てないのですが、17万人のうち、10万人ほどが男子です。ほぼ1対1ですが、中学校より高等学校の方が、若干男子の方が多くなっています。埼玉県内には中学校で19万人、高等学校で17万人の生徒が在籍しているということです。次に、埼玉県のサッカー協会のホームページを見ていただくと、このようなデータが出ています。

つぎに、埼玉県登録サッカーチーム数・選手数（2017年3月末時点）の（表3）をご覧ください。

1種、2種、3種というふうにかテゴリーが分れています。皆さん、大学生は1種。社会人と同じカテゴリーになっています。

こちらが2種で、高校生年代の選手が所属していることになります。3種というのが中学校年代、4種が小学校年代、というふうな区分けをしています。高体連に所属している男子は10,661人です。

もう一つ、高校年代の選手が所属しているのが、先ほど明石先生から、クラブの話もありましたが、地域のクラブチームに所属をしているという人がいます。2種では160人ということになっております。

表3 埼玉県登録サッカーチーム数・選手数

埼玉県登録サッカーチーム数・選手数(2017年3月末時点)		男女区分					チーム数	選手合計
種別	種別区分	男子	女子一般	女子高校生	女子中学生	女子小学生		
第1種	J1	81	0	0	0	0	2	81
	J2	0	0	0	0	0	0	0
	J3	0	0	0	0	0	0	0
	JFL	0	0	0	0	0	0	0
	社会人連盟	8,403	2	0	0	0	336	8,405
	大学連盟	1,209	0	0	0	0	20	1,209
	専門学校連盟	45	0	0	0	0	2	45
	高専連盟	0	0	0	0	0	0	0
	その他	69	0	0	0	0	4	69
	第1種 計	9,807	2	0	0	0	364	9,809
第2種	高体連	10,661	0	1	0	0	177	10,662
	クラブユース連盟	162	0	0	0	0	5	162
	その他	0	0	0	0	0	0	0
	第2種 計	10,823	0	1	0	0	182	10,824
第3種	中体連	14,401	0	0	98	0	388	14,499
	クラブユース連盟	4,900	0	0	12	0	77	4,912
	その他	5	0	0	0	0	1	5
	第3種 計	19,306	0	0	110	0	466	19,416

出所：埼玉県サッカー協会「概要」より作成

(<http://www.saitamafa.or.jp/info/sfa/index.html>)

高校年代の選手は圧倒的に高等学校体育連盟に所属をして、いわゆる学校体育の中で活動をし、大会に出るといのが中心になっています。

では3種の中学校年代はどうかというと、中学校体育連盟に所属している人が14,000人、クラブチームに登録している選手が4,900人。高等学校の年代と比べると、中学校年代のクラブチームへの登録数が非常に多くなっています。このことが指導者とも関わってくるので覚えといていただければと思います。

埼玉2種、3種の登録の、10年間の経緯を表にしてみました。(表4)

2種の登録チームはそれほど変わっていません。2008年で187チーム、2017もまた187チームが登録しています。3種はチーム数が458、高等学校の2倍以上になっています。選手数も高等学校の年代である2種が1万人。3種が18,000人。埼玉県内の2種・3種の登録状況は以上ようになります。

さて、もう少し詳しくそれぞれを見ていこうかと考えています。まずは高校生年代の2種の状況を見てみたいと思います。まずは部員数がどのような状況かということです。部員が100名を超えるチームが県内には21校

表4 埼玉県2種・3種チーム状況

埼玉県2種・3種チーム状況

年	2種登録チーム数	3種登録チーム数	2種登録選手数	3種登録選手数
2008	187	445	8811	17884
2009	187	450	8920	18210
2010	187	457	9189	18459
2011	185	456	9551	19561
2012	184	451	9906	19891
2013	184	457	10131	20054
2014	184	460	10414	20028
2015	180	462	10573	19831
2016	182	466	10816	19287
2017	187	458	10707	18057

出所：埼玉県サッカー協会「概要」より作成

(<http://www.saitamafa.or.jp/info/sfa/index.html>)

あります。調べてみたところ、私立高校がそのうち10校です。

そして、部員の最多校が236名の浦和東高校になります。ここで浦和東高校出身の人にご協力をいただきたいと思います。浦和東高校出身の選手の方、挙手をお願いします。何名かいるようですので、どなたか代表で、前に出てきてもらってもよろしいですか。

竹沢 はい、ありがとうございます。幾つかね、ちょっと質問をしたいので、どうぞ。

お名前は。

学生 イチカワです。

竹沢 イチカワさん。何年生ですか。

イチカワ 3年生。

竹沢 はい。君がいる時は、部員は何人くらいですか。

イチカワ 自分の時は220名。

竹沢 220名。グラウンドは一つですね。

イチカワ はい。

竹沢 どんな感じで練習していたのでしょうか？

イチカワ カテゴリーが3つありまして、グラウンドは1つしかないんで、トップチームと、セカンドチームが半面ずつコートを使って、残りのほとんどが1年生になるんですけど、そのカテゴリーが、野球部の外野の方を使って練習をしていました。

竹沢 ああ。そうすると、活動時間は放課後に一斉に行うということですね。

イチカワ はい。放課後ですね、はい。

竹沢 朝だけ活動するということはありませんでしたか。

イチカワ 朝練は一切ありませんでした。全部、放課後行っていました。

竹沢 分かりました。ありがとうございました。

以前サッカー部の指導をしていた個人的な感覚ですけれども、1人の指導者がチーム指導するときに適正な選手数は30名～50名かなと思います。1人が指導するには、30名前後が適正かなと思います。指導にあたる限界は50名前後かとも思っています。

230名の部員を抱えて、しかもグラウンドが一つしかない。そのような状況では指導者の方は大変ご苦労されているかと推測されます。100名を超える学校は県内に21校ありますけれども、いろいろな工夫をしながら指導し、運営していることかと思えます。

選手数が100名以上というラインを引いて話をしてきましたが70名から99名のチームは33校あります。人数とハード面の釣り合わない中でトレーニングを工夫しながらトレーニングをしているのだろうということが推測できます。全体の3割ぐら이가70名以上の学校になっております。

さて、埼玉県の2種の大会なのですが、埼玉県のU18リーグというのが4月開幕して、12月まで繰り広げられています。これは、プレミアリーグだとか、プリンスリーグという関東・全国につながる大会です。埼玉県内を幾つかの地区で分けて、開催しています。

公式戦の試合数の確保という大きな意味があると思われまます。

その他には、皆さんもテレビでご覧になることがあるかと思えますが全国高等学校サッカー選手権県予選、新人大会、インターハイ予選などがあります。

以前はチームによって試合数の差が出てくるというやり方をしていましたが、U18のリーグが始まってからは、年間公式戦が30～50試合は確保されている状況です。

いろいろ話がいろいろ飛びますけれども、高校年代、どんなチームが優勝しているのか調べてみました。

こちらの資料は、関東大会予選、それからインターハイです。それから高校選手権、新人大会で色分けしてみました。

埼玉は、以前、サッカー御三家などと言われていたのが遠い昔の話になってしまった感があります。私たちが高校生の現役でプレーしている頃には、浦和南高校が全国大会三連覇などして強い埼玉のイメージがありました。

埼玉県内の優勝校を見ると、先ほど手を挙げてくれた浦和東はやはり各種の大会で優勝しています。

最近は、正智深谷が、24年、25年あたりからタイトルを取って行って、

ここ数年は昌平高校が優勝しています。

話を交えて次はグラウンドの状況を見ていきまわと思ひます。

埼玉県のサッカー状況は、学校体育の中のクラブ活動というのがメインです。学校のチームというのは自分学校のグラウンドを使用しています。最近では高等学校でも人工芝を備えている学校が増えてきています。

こんどは、クラブチームを見てみたいと思ひます。お手元の方の資料にクラブチームの概況、主にジュニアユースになりますが、載せさせていただきます。

ユース年代だとチーム数が少ないもので、ジュニアユースのチームを挙げさせていただきます。

クラブチームはグラウンドの確保が大変で、近隣の学校とか公共施設を借用していることが多いです。クラブチームでグラウンドを備えていてというのは、Jリーグの下部組織は自前のグラウンドを持っていますが、資料にあるようなクラブチームについては借用して活動しています。活動場所も「月曜日公立の学校のグラウンド、火曜日は別の会場」というふうにしてトレーニングをしているようです。

さて、中体連の指導者についてみると、地域別にごとにどれぐらいの指導者のライセンスを保持しているかがお分かりいただけると思ひます。裏には課題も書いてあります。

中学年代の学校体育の中では、サッカーの経験がある指導者が非常に不足しているという現状があります。そこで埼玉県サッカー協会では指導者のライセンスを大学生に取ってもらって中学校に指導に赴くという制度を導入しています。しかしながら、問題もあるようです。それとは対照的に、高体連のサッカー専門部の方では、S級指導者ライセンス保持者が1名、A級の方が16名。さらにB級の方が64名います。

C級のライセンスは中学校年代までを指導するライセンス。高等学校・ユース年代を指導するにはB級。1種指導するにはA級が相応しいとおとということになっています。

プロの監督になるにはS級のライセンスが必要になります。高等学校には64名の方がB級のライセンスを持って指導に当たられていると、専門性

が生かされているというふうに思っています。

最後に大学の状況についてみると、埼玉県大学サッカー連盟には現在、1部8チーム、2部6チーム、計14チームが所属しています。

埼玉で優勝して、関東大会で1位、2位になると、関東リーグに上がるということができます。埼玉県では、東京国際大学が関東大学サッカーリーグ1部で活躍しています。東京国際大学以外は、関東リーグには昇格が出ていません。

埼玉に所属している1部8チーム、2部6チームの中では、人工芝のグラウンドを備えている大学が多くなってきました。ハード面では非常に大学の方は恵まれているかなというふうに思います。

まとめと課題については、多分、後ほど明石先生のお話で始まっていくと思います。

話もまとまりませんがご清聴ありがとうございました。